



よさこい祭り

学
院
報

学校法人高知学園
 高知リハビリテーション学院

学院報第24号

学校法人 高知学園 高知リハビリテーション学院
平成28年 9月20日発行
発行
学院報編集委員会
〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3 Tel 088-850-2311 Fax 088-850-2323 http://www.kochi-reha.ac.jp/ E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション
 学院への抱負⑬

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、温かいご支援、ご協力を賜り誠に有り難うございます。保護者の皆様にも少しでも学院のことを知っていただくとうれやうございました学院報も第二十四号の発刊を迎えることになりました。

平成二十八年度は四月三日に理学療法学科四十九期生（六十八名）、作業療法学科二十四期生（四十八名）、言語療法学科二十期生（二十九名）、合計百四十五名の若いエネルギーに溢れる新入生を迎え、学生総数五百八十八名でスタートいたしました。早いもので四月のスポーツ大会、八月のよさこい祭り、大綱祭りも終わり、今は十月の学院祭の準備に向けて頑張っているところです。これらの各行事を通してクラス・学科あるいは学院生としての絆をしっかりと深めていきたいと思います。

さて、高知新聞六月一日の朝刊に「専門職大学の創設答申」という見出しで記事がでておりました。お目に留められた方も多いと思いますが、その一部を紹介いたしますと中教審は五月三十日、ITなど成長分野で即戦力となる人材育成を目指し、実践的な職業教育を行う新

しい高等教育機関の創設を馳浩文部科学相に答申した。大学制度に位置づけ、「専門職大学」「専門職業大学」の名称案を提示。文部科学省は二〇一九年春の開学を目指し、法改正や制度設計を進める。大学制度に新たな教育機関が加わるのは一九六四年の短期大学創設以来半世紀ぶりのことで、既存の大学よりも実践を重視し、産業界や地域の関係機関と連携して教育過程を編成するとしている。

本院は、以前から学院報で述べてきましたように創立五十周年に向けて大学化も含めて今後の学院の在り方について積極的に検討し、できることから具体化していくことを報告させて戴き、平成二十六年に図書館、パソコン実習室を中心とした別館の竣工、またセラピストの養成に当たっては、より実践的な技術や知識の重要性が求められていることから平成二十七年には患者さんの全身状態や病状の把握、急変への対応などの実践教育を行う臨床技能総合学習室を創設いたしました。

専門職大学は、従来の大学教育に加え、より実践力を重視した教育課程であり、本院が目指す教育目標とも一致しており、その実現に向けて更に努力していきたいと思っております。

本院が目指す教育目標とも一致しており、その実現に向けて更に努力していきたいと思っております。

本院が目指す教育目標とも一致しており、その実現に向けて更に努力していきたいと思っております。

本院が目指す教育目標とも一致しており、その実現に向けて更に努力していきたいと思っております。

本院が目指す教育目標とも一致しており、その実現に向けて更に努力していきたいと思っております。

本院が目指す教育目標とも一致しており、その実現に向けて更に努力していきたいと思っております。

よさこい祭りを終えて

理学療法学科 二年 田井 沙苗

私は何度かよさこい祭りに参加したこともあったし、よさこいが大好きなこともあり、よさこい委員に立候補しました。今まで教えてもらう立場だったので、よさこいの練習が始まって、みんなによさこいを教える立場に変わると、よさこいの振付を教えるのはとても難しいことだと感じました。自分の力不足なこともあり、うまくまとめることができず落ち込んだこともあったけど、よさこい委員のみんなに助けってもらい、協力し合って本祭に向けて盛り上がりが出ていくことができました。

本祭は雨も降らず暑い二日間でしたが、みんな笑顔で楽しく踊ることが出来ました。

本祭の途中であまり関わりがなかった人から「よさこいって楽しいね」とか「来年も踊りたい」と声をかけてもらい、よさこい委員をして良かったと思ったし、よさこいに参加する体験をさせてくれた学校やサポートしてくれた先生方に感謝しています。



レクリエーション大会を終えて

理学療法学科 二年 山本 悠慎

今年度のレクリエーション大会の委員長を務めさせていただきました。今年度より四年生も全員参加するということで、例年よりも多くの人数をまとめる必要がなかったという不安がありませんでしたが、入学して間もない一年生も自分から進んで行動をしてくれたり、三年生四年生も前年までの経験を基に進行をスムーズにしてくれ、各競技が白熱した試合展開となり、同時にスポーツを通じて学年間や学科間で新たな交流が生まれた場面もあったように感じました。不慣れでたくさん迷惑をかけたかもしれませんが、他の学生の方や先生方に助けていただき今年度のレクリエーション大会が成功しました。ありがとうございました。

学生生活について

言語療法学科 二年

濱田 希良々

入学して一年半がたとうとしています。入学当初は新しい環境で、新しい友人ができるかどうか、勉強についていけないといった不安でいっぱいでした。不安と少しの期待とともに入学したのがこの前のように思えます。何もかもが初めての土地で、わからないこともたくさんありましたが何とか過ごすことができています。友人ができるか不安でしたが、良い友好関係を築くことができました。

作業療法学科 二年

日浦 雄大

高知リハビリテーションに入学して早くも二年目になりました。二年生に進級する時、より難しくなった勉強についていくことや、クラスの総務の仕事、コンパなどの企画、他学年との関わりなどうまくやっていけるかと不安でした。しかし今のクラスメイトと二年目の付き合いになり、より一層の友情も深まって困った時に手助けをしてくれたので、とても良い学校生活が送れています。今、

理学療法学科 二年

元吉 一公

高知リハに入学してはや二年ですがとても濃い二年間でした。やはり最初は学習面などの不安が強くあり、クラスにも馴染めるかどうかという心配もありました。ですが、学校の先生方や先輩方はしっかりと一人一人に向き合ってくれてくれるとても頼れる方ばかりで不安もいつの間にか無くなりました。また、よさこいやレクリエーション大会など行事が盛んで自然とクラスの絆は深まっていきました。今では

勉強への不安も、友人たちと共に協力していくうちに徐々に薄れていきました。入学当初は友人ともまだぎこちなかったのですが、レクリエーションやよさこい、学院祭を通して友人だけでなくクラスのメンバーとも打ち解けられたように思います。こうして、一年半無事に過ごすことができたのは、友人や先生、先輩、近所の方々の支えがあったからです。言語聴覚士を目指すうえで、より勉強が難しくなってくると思いますが、みんなと協力して楽しみながら勉強をしていければ良いなと思っています。

夏休みにも突入しましたが、二年生の夏休みは一年生の時とは違い、本格的な病院での見学実習や保育園実習が始まり、また、私は高知リハビリテーションの野球部に所属しているのですが、全国大会の予選が始まったりと、一年生の時とは少し違った夏休みを送っています。二年生という自覚を持って、勉強をする時はしっかりと、遊ぶ時は遊んで、スイッチのON・OFFをハッキリして充実した休みを送り、夏休み後の学校生活に良い影響を与えられるようにしたいと思います。

共に夢を目指すとても大切な仲間です。そして学校で教わったことはテストや実習で生かすことができます。特に実習では実際に現場を見学することで新しい発見や理学療法士の方の話が聞くことができ、将来自分がどんな理学療法士になりたいというイメージが強く持てるようになります。また、全国各地の実習先の病院には高知リハの先輩方が大勢いて分からないことは気軽に聞けることも高知リハの良さの一つです。これからもこの恵まれた環境で高知リハという誇りをもって勉強に励みたいと思います。

大綱祭りを終えて

言語療法学科1年 岡崎 愛彩

まず、はじめに思ったのはお客さんとの距離の近さでした。こんな近い距離で踊ったことがなかったので恥ずかしさと緊張でいっぱいでした。でもこの近さでの躍りを体験できるのは大綱祭りの良さでもあるのではないかと感じることができました。見に来てくださった方々も笑顔で手拍子をしてくれたり、リズムにのってくれたりして楽しく踊ることができました。

そして、よさこい祭りとはまた違った楽しさを味わうことができ、とても良い経験をさせていただいたと思いました。



クラブ紹介

【野球部】

主将 理学療法学科二年 小林 高知

野球部は、一年七名、二年六名、三年七名、MG四名の計二十四名で活動しています。部員は経験者が多く、試合に勝つという常勝心と野球を心から楽しみたいという気持ちをもって活動しています。勉強やバイトなど忙しい時間の中で、各自が課題を持ち練習に取り組んでいます。成果として昨年度は、全国専門学校軟式野球大会四国予選一連覇を達成し、四国代表として出場しました。試合では、クラスの友達や先生、保護者、事務員の方などが球場へ足を運んでくださり、私たち部員の支えになっています。野球部を応援してくる方々に感謝の気持ちを忘れずにこれからも一生懸命活動をしていきたいと思うので、今後とも高知リハ野球部をよろしくお願いいたします。



「全国専門学校軟式野球選手権大会四国予選一優勝」

【吹奏楽部】

部長 言語療法学科二年 米沢 瞳子

現在、部員は十名で、吹奏楽を演奏する人数としては少なく、卒業生にも参加してもらいながら活動しています。学院祭や卒業式、クリスマスミニコンサートなどの学院内のイベントや、病院や施設への慰問演奏を積極的に行っています。練習は、基本的には週二日ですが、イベント一〜二週間前になると集中的に練習をして、演奏力を磨いています。

演奏に合わせてさらにステーションを盛り上げるために、対象者の方と一緒に歌を歌ったり、楽器をたたいたり、ダンスや劇で演奏を盛り上げてくれる「盛り上げ隊」も一緒に活動しています。対象者の方々が演奏に合わせて一生懸命歌を歌ってくれている姿や、演奏後の喜んだ顔を見ると、今までにない達成感を味わえます。

楽器の経験に関わらず、吹奏楽に興味のあるひと、高齢者が好きなひと、場を盛り上げるのが得意なひととは、一度吹奏楽部に遊びにきてください。



慰問演奏（障害者支援施設オイコニアにて）



学院祭のご案内

学院祭実行委員長 作業療法学科3年 澤田 将志

今年も高知リハビリテーション学院の大イベントである学院祭の季節がやってきました。本年度の学院祭は10月の9日、10日に開催いたします。今年は、毎年恒例のオープニングの餅投げをはじめ、豪華景品のビンゴ大会や、沢山の屋台など、地域の皆さんが楽しめるようなものもたくさん用意しております。屋台では、うどんやチーズカリカリ、箸巻きやクレープ、わたがし、チュロスなど豊富なバリエーションを取りそろえ各クラスで企画しております。また外部からも参加していただく予定です。学生の屋台とはひと味違ったものを楽しんでいただけたらと思います。そして、クラス自慢やアームレスリング、コーラ早飲み、イントロなど学生が中心になって行うイベントや学科紹介もあります。生徒、職員はもちろんのこと、地域の皆様にも楽しんでいただけるような企画を、学院祭実行委員一同丸となって準備しております。ぜひ皆様お誘いあわせのうえご来場されますことを心よりお待ちしております。

特定非営利活動法人“土佐の風”設立について

担当職員 川竹 章

平成28年6月20日、土佐市と高知リハビリテーション学院のご支援・ご協力により、特定非営利活動法人土佐の風が、設立認証されました。

この法人は、障害が心配される乳幼児や児童、高齢者に対して、土佐市を中心とした身近な地域で、日常生活における基本動作や集団活動への適応能力を高めることを目指した支援を行うことにより、QOL(生活の質)の向上に寄与することを目的としています。

本学院卒業生を中心としたベテラン理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士などをメンバーとして、最初は通所、週5日で活動します。3療法士の揃った支援施設は高知県内初であり、利用者の方々を始め、本学院学生や教員の研修にもお役に立つことができるよう、事業に取り組む姿勢です。

現在、小児対象の『とさっちくらぶ』が10月開設に向けて準備中です。場所は土佐市の社会福祉センター内です。立ち上げ準備中ですが、スタッフ一同、明るく元気に活動していきたいと思っておりますので、応援よろしくお願いたします。見学希望の方はいつでもご連絡下さい。

))) 教 員 紹 介 (((



言語療法学科
土居 奈央

本学院言語療法学科十期生の土居奈央です。昨年五月に入職し、今年度より四年次生の補導主任をさせて頂いています。臨床経験は五年、現在は大学院修士課

程に在籍しています。五年間の臨床は高知大学医学部附属病院にて、嚥下障害や高次脳機能障害、聴覚障害など多彩な障害を経験しました。辛いこともありましたが、そこでの出会った患者様は、優しく、強く、たくさんのことを学ぶことができました。私は今、学生

の皆さんに伝える難しさと同時に、学ぶ大変さも身に染みて感じています。皆さんが臨床に出た時に、本学院で学んで良かった、臨床が楽しい、と思ってもらえる様、一所懸命お手伝いをさせてもらいたいです。どうぞよろしくお願いたします。



作業療法学科
石元美知子

今年で教員二十三年目になります。今年三月にはOT学科第二十期生が卒業しました。施設の責任者として、また教育や研究の分野で活躍している卒業生も沢

山いて頼もしい限りです。また、週に一回は、もみきの病院で新人作業療法士への指導もさせて頂いていますが、新人ながら患者様に優しくも責任を持って接し、そして自ら勉強会に参加する姿をみて嬉しく思っています。私は高次脳機能障害の友の会活動をしてい

ますが、それにもよく卒業生が参加してくれます。社会貢献にも関心を持って活躍していることも嬉しいことです。今は四年生の副補導主任をしていますが、臨床実習でバイザーにお世話を掛けながらも頑張っている姿を見て、四年間の成長を感じています。



理学療法学科
柏 智之

私は本学院の理学療法学科三十期生で、今年で理学療法士になって十六年目になります。本学院に入職してからは丁度十年目を迎えました。理学療法学科ではまだ一番の若手(もうアラフォーですが笑)です。学院内では二年生の補導主任、よさこい委員長として、

未だに右往左往しています。プライベートでは四歳と二歳になる二児の父として子育てに追われる毎日ですが、そんな中で学生指導の手がかりを得る場面も少なくありません。学生指導は子育てと一緒に、「辛抱」の連続だと考えています。子育てを通してですが、私も以前より少しだけ色々な事に対して辛抱することができるようになりました。何事もうまくいかない学生

に直面した時に「最近の学生は…」とつい考えてしまいがちですが、そこはぐっと辛抱して何か別の手を打つようにと心掛けています。辛抱の先にある達成感を学生と共有できる瞬間が、教員の一番の醍醐味だと思っています。今後は学生とより多くの達成感を共有できるように、さらに「辛抱」ができる自分を磨いていきたいと考えています。

学習支援相談

学習支援推進委員会委員長

山崎 裕司

二〇一五年七月から学習支援相談を開始しています。窓口は図書館力ウンターです。相談のほとんどは図書館内のグループ学習室で行っています。昨年度(三月末まで)の相談件数(人数)は、四十六件(三三五名)でした。今年度は七月末までの四ヶ月間に四十二件の相談を受けました。学習相談が学院内に周知されてきたようです。相談内容は、記憶課題に関する相談(八十二%)が最も多く、その他、テスト対策資料の作成、文章の書き方などがありました。

記憶に関する相談があった場合には、その場で記憶してもらいます。記憶しなければならぬと理解していても記憶に成功した経験がないと、なかなか努力できないものです。そのため記憶に成功させるための工夫を沢山準備しています。驚くほど記憶できる自分に出会えるはずですよ。

記憶の秘訣は、努力すると短時間で記憶に成功することです。そのためにはヒントを活用すること、記憶内容を少量に分割すること、一度にすべてを記憶しようとしていないことが重要になります。例えば、ヒントを振っておけば九十九個の筋肉名は、およそ十分で記憶することが可能です。こんな膨大な量を記憶するのは不可能だと、あきらめたり、悩んだりしている学生さんは是非学習相談をご利用ください。

臨床技能総合学習室

教務部長 濱田 和範

これまでは「臨床実習で現場に出て体で覚える」事が主流であった。現場に入り、指導者の下「見て、聞いて、体で経験しながら覚える」事で技術・技能を習得してきた。しかしながら、医療倫理・患者権利意識の高まりなども相まって、資格を有しない学生による臨床実習への協力を敬遠する傾向も強まり、身体接触を必要とする評価・訓練を学生に数多く経験させることが困難となってきた。

こうしたことから平成28年3月に「臨床技能総合学習室」を設け実際の医療現場を模した各種の疑似環境の中で、人や物と関わりながら専門的な知識と技術を学ぶシミュレーション教育装置を導入した。これは急性期病棟やICUに配置されている医療工学機器を配した臨床現場(模擬病室)を創り出し、その中で実際の患者を想定したシミュレーターを用いて循環状態や呼吸状態などを総合的に学習させ適切な評価、また、急変にも対応できる技能等を修得させようとするものである。加えて人体解剖の立体映像を用いて、呼吸・循環系を中心に、人体の構造と機能について分かりやすく習得できる教育装置も併せて導入した。

これらの教育装置は、学内授業や臨床実習前教育に使用するだけでなく、卒業生の教育にも活用できるように生涯教育の施設として位置付け、個人またはグループの練習の場としても活用してスキルアップに役立てていきたい。また、医療現場をシミュレーションし、PT・OT・ST 3職種チーム医療を実践トレーニングする場としても提供できるようにしたいと考えている。

シミュレーション教育は、①実際の患者ではなく安全に練習することができる、②病院実習では得られない臨床体験を学生に習得させることができる、③実際の臨床場面を再現できる、④実際に起こる場面を繰り返し学習できる、⑤ビデオを用いた記録が可能で、振り返り学習ができる、⑥失敗することが可能であり、失敗を経験することで自分の能力レベルを知り成長に繋げることができる、⑦間違った行動を選択した場合は時間を止めて検討したり、やり直したりすることもできる、⑧必要最低限の知識や技術に関してシミュレーターで学んだうえで臨床実習を行わせることができる。などの効果が期待できるものである。



全国で活躍する卒業生シリーズ②③

医療法人社団明日佳桜台明日佳病院
理学療法士 理学療法学科四十期生

田辺 尚



理学療法学科四十期生として卒業し、社会に出て六年目になります。現在、卒業すると共に就職した北海道札幌市厚別区にある医療法人社団明日佳桜台明日佳病院に勤務しています。入社当初は、院内の療養病棟にて勤務しており、主に大腿骨頸部骨折や変形性膝関節症といった整形疾患の術後患者様の理学療法を中心に介入していました。その後、入職三年目より、病院横に併設された「デイケアさくらだい」と療養病棟の兼任勤務を任されるようになりました。兼任という事もあり、医療保険領域と介護保険領域共に触れる機会が多くなり、それぞれの領域の結びつきや関係性等、理学療法士としての仕事の楽しさを感じる反面、難しさも感じる様になってきました。話が前後しますが、生まれも育ちも高知の私が遠い北海道の地に就職したのは、実習中に「応用行動分析学」の考え方を活用して治療介入を行う人たちと出会ったのがきっかけでした。実習中に、応用行動分析学の技法に興味を持った私は、担任であった山崎先生に桜台明日佳病院へ就職したい旨を伝えたのを今でも鮮明に覚えています。就職と共に、実習中に指導して頂いた方に連れられて北海道で行われているRand ABA研究会に参加させてもらう様に

なりました。勉強会では日本福祉リハビリテーション学院に勤務されている遠藤先生を中心に、症例検討による意見交換を始め、介入した内容の全国学会発表、全国各地から講師を招聘して知識、技術を深めています。二年（就職して二年）経った頃には、先輩方の指導の下、全国学会でポスター発表を行う事ができ、三年目には全国学会の舞台で自主企画シンポジウムのシンポジストとしてスライド発表をさせていただきました。その他に、研修会の講師として講演する機会や、参考書の執筆にも携わらせて頂き、非常に貴重な体験をする事が出来ました。また、研修会や全国学会後の懇親会等では、多くの理学療法士を始め、作業療法士や言語聴覚士の方々と知り合う事ができ、様々な情報を得る事が出来るなど、理学療法士としても一人間としても貴重な体験をさせていただいています。より良い理学療法を提供していくためには、様々な研修会や勉強会に参加し、他職種とも意見交換を行い、スキルアップできるような工夫を考えていく必要があると思う様になりました。今後も、臨床経験の蓄積だけでなく、学会発表なども通して、色々な面で理学療法士としてスキルアップしていきたいと思っています。

平成28年度後期行事予定表

10月9日・10日	学院祭
12月5日～12月9日	後期定期試験（3年次生）
2月9日～2月17日	後期定期試験（1・2・4年次生）
3月5日	卒業式



保健室だより

上村 孝子

充実した学生生活を送るには、『健康である』ことが重要です。『健康である』ことへの過信や

無関心から、時に不摂生をして無意識のうちに過労が続き、思いがけない病気を招く結果になります。保健室は皆さんの心と体が元気でいられるようお手伝いするところです。病気や怪我の応急処置や体重・血圧チェック、様々な相談にも応じていますので、気軽に来室してください。最近は少なくなりましたが、症状も言わずに、「シブない?」「風邪薬ちょうだい」「痛み止めちょうだい」「マスクちょうだい」「冷ピタちょうだい」等々。まず、「いつから、どうしましたか?」を確認して必要な処置をします。副作用のない薬はなく、使わずに済むなら出来る限り使用を控え、必要だと判断してから薬を渡します。前期一番多かったのが頭痛と腹痛です。鎮痛剤の服用で痛みは多少治まっても原因まで治まりません。薬の効用が切れたらまた痛みが始まることがあります。安易に市販薬（鎮痛剤）に頼らないで、痛みが続くようなら医療機関で相談してみてください。